



令和6年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和6年2月14日

上場会社名 株式会社 御園座 上場取引所 名
 コード番号 9664 URL http://www.misonoza.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮崎敏明
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員総務経理部長 (氏名)島田治彦 (TEL) (052)222-8202
 四半期報告書提出予定日 令和6年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和6年3月期第3四半期の業績 (令和5年4月1日～令和5年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
6年3月期第3四半期	2,559	32.6	196	—	189	—	164	—
5年3月期第3四半期	1,930	19.6	△28	—	△47	—	△124	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
6年3月期第3四半期	33.08	—
5年3月期第3四半期	△25.03	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
6年3月期第3四半期	6,065	4,556	75.1
5年3月期	6,316	4,384	69.4

(参考) 自己資本 6年3月期第3四半期 4,556 百万円 5年3月期 4,384 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
5年3月期	—	—	—	0.00	0.00
6年3月期	—	—	—	—	—
6年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和6年3月期の業績予想 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,150	15.4	120	—	110	—	100	—	20.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	6年3月期3Q	4,984,500株	5年3月期	4,984,500株
② 期末自己株式数	6年3月期3Q	5,244株	5年3月期	5,194株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	6年3月期3Q	4,979,301株	5年3月期3Q	4,979,306株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第3四半期累計期間	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、消費者物価は上昇するも、一部に足踏みもみられるが、景気及び個人消費は緩やかに回復している状況で推移いたしました。

当社におきましては、徹底した感染拡大予防対策を実施し、お客様と公演関係者の安心・安全を最優先に考え、安心してご来場いただけるよう努め、その中で引き続きお客様の嗜好に合わせた公演の実現、観客動員の維持も図りながら、注意深く上演しております。

今後につきましても、感染拡大の防止策を徹底し、社会経済活動が段階的に回復する中、公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和5年4月から12月までに公演を28種類、上演日数として161日間、上演回数として227回（前年同期190回）の実施を致しました。

〈当第3四半期累計期間の上演実施作品〉

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
陽春花形歌舞伎	4月1日～22日	22	40
ミュージカル『青春 POP ROCK ルーザーヴィル』	4月26日～30日	5	8
『ザ・ミュージック・マン』	5月6日～7日	2	3
純烈 御園座公演 スーパー・ササダンゴ・シアター	5月20日～21日	2	4
坂東玉三郎コンサート『あなたへ歌を』	5月27日～28日	2	2
ミュージカル『エリザベス・アーデンVSヘレナ・ルビンスタイン-WARPAINT-』	6月2日～4日	3	5
ミュージカル『She Loves Me』	6月8日～10日	3	5
少年忍者『俺たちのBANG!!!～大劇場を占拠せよ～』	6月13日～17日	5	8
『ザ・ニュースペーパー』	6月18日	1	1
御園座6月公演 松平健 辰巳ゆうと 桂米團治	6月21日～26日	6	9
山内恵介コンサート2023in御園座	7月1日～2日	2	3
鶴瓶御園座独演会	7月8日～9日	2	2
よしもと祭りだぜい！全11公演	7月11日～17日	7	11
夏だぜ!!! 吉本新喜劇&バラエティ公演	7月18日～23日	6	11
石川さゆり2023御園座スペシャル	7月25日～30日	6	6
ブロードウェイ・ミュージカル『ピーターパン』	8月5日～6日	2	3
舞台『千と千尋の神隠し』	8月13日～26日	14	18
ブロードウェイ・ミュージカル『ビートルジュース』	9月2日～8日	7	8
ザ・ニュースペーパー特別公演	9月10日	1	1
大地真央主演『最高のオパハン中島ハルコ』	9月13日～20日	8	12
舟木一夫御園座コンサート2023	9月22日～24日	3	3
片岡仁左衛門 坂東玉三郎 錦秋特別公演	10月7日～24日	18	16
明石家さんま座長公演 笑輪の笑い全国ツアー	10月28日～29日	2	3
梅沢富美男 水森かおり 特別公演	11月4日～13日	10	14
年末恒例大爆笑大会 よしもと爆笑公演	11月14日～19日	6	11
前川清スペシャルコンサートin御園座	11月23日	1	1
ミュージカル・ピカレスク『LUPIN～カリオストロ伯爵夫人の秘密』	12月7日～20日	14	18
加藤登紀子ほろ酔いコンサート	12月23日	1	1
合計		161	227

(上演日数には休演日も含みます)

〈公演中止となった当第3四半期累計期間の上演予定作品〉

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
該当なし		—	—
合計		—	—

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は、25億5千9百万円（前年同期は19億3千万円）となりました。売上高は増加し、利益面では、営業利益1億9千6百万円（前年同期は営業損失2千8百万円）、経常利益1億8千9百万円（前年同期は経常損失4千7百万円）、四半期純利益1億6千4百万円（前年同期は四半期純損失1億2千4百万円）となりました。

なお、当第3四半期累計期間に予定していた公演をすべて順調に上演できましたので、公演中止に伴う特別損失はございません。

当社の報告セグメントは劇場事業単一セグメントでありますので、セグメント別の記載は省略しております。

（2）財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

（資産の部）

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、10億8千3百万円となり、前事業年度末に比べ9千5百万円の減少となりました。この主な要因は、現金及び預金1億7千5百万円増加した一方で、売掛金が1億9千9百万円減少、未収入金が5千万円減少したことによるものであります。固定資産の残高は、49億8千1百万円となり、前事業年度末に比べ1億5千5百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が9千1百万円、機械及び装置が6千8百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、60億6千5百万円となり、前事業年度末に比べ2億5千万円の減少となりました。

（負債の部）

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、5億9千4百万円となり、前事業年度末に比べ2億6千5百万円の減少となりました。この主な要因は、未払法人税等が4千1百万円増加、前受金が6百万円減少、買掛金が3億1千3百万円減少、1年内返済予定の長期借入金が2千2百万円減少、未払金が1千8百万円増加したことによるものであります。固定負債の残高は、9億1千4百万円となり、前事業年度末に比べ1億5千6百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が1億5千万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、15億9百万円となり、前事業年度末に比べ4億2千2百万円の減少となりました。

（純資産の部）

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、45億5千6百万円となり、前事業年度末に比べ1億7千1百万円の増加となりました。この主な要因は、利益剰余金が1億6千4百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和6年3月期の業績予想につきましては、当第3四半期累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点において令和5年11月9日付「業績予想修正に関するお知らせ」にて発表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和5年3月31日)	当第3四半期会計期間 (令和5年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	823,987	999,175
売掛金	257,672	57,712
貯蔵品	1,100	1,403
未収入金	50,067	—
その他	45,995	25,525
流動資産合計	1,178,823	1,083,816
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,334,780	2,243,665
機械及び装置（純額）	539,020	470,778
土地	2,124,656	2,124,656
その他	77,418	68,412
有形固定資産合計	5,075,875	4,907,512
無形固定資産		
無形固定資産	12,591	7,423
投資その他の資産		
投資有価証券	43,399	50,482
その他	6,427	17,261
貸倒引当金	△739	△739
投資その他の資産合計	49,087	67,004
固定資産合計	5,137,554	4,981,940
資産合計	6,316,377	6,065,757

(単位：千円)

	前事業年度 (令和5年3月31日)	当第3四半期会計期間 (令和5年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	412,480	99,386
1年内返済予定の長期借入金	224,181	201,674
未払金	24,386	43,246
未払法人税等	—	41,056
前受金	156,253	149,420
その他	43,181	59,844
流動負債合計	860,483	594,628
固定負債		
長期借入金	800,000	650,000
繰延税金負債	257,484	257,487
退職給付引当金	4,962	5,146
その他	8,927	2,247
固定負債合計	1,071,374	914,880
負債合計	1,931,858	1,509,509
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	2,058	166,791
自己株式	△39,817	△39,905
株主資本合計	4,371,800	4,536,446
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,718	19,801
評価・換算差額等合計	12,718	19,801
純資産合計	4,384,519	4,556,248
負債純資産合計	6,316,377	6,065,757

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年12月31日)
売上高	1,930,512	2,559,857
売上原価	1,500,318	1,886,344
売上総利益	430,194	673,513
販売費及び一般管理費	458,469	476,937
営業利益又は営業損失(△)	△28,274	196,575
営業外収益		
受取配当金	1,377	1,835
その他	1,632	1,381
営業外収益合計	3,009	3,217
営業外費用		
支払利息	10,273	8,268
支払手数料	10,500	—
その他	1,164	1,985
営業外費用合計	21,938	10,253
経常利益又は経常損失(△)	△47,203	189,539
特別利益		
補助金収入	—	8,000
特別利益合計	—	8,000
特別損失		
公演中止損失	56,398	—
臨時休業等による損失	27,415	—
特別損失合計	83,813	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△131,017	197,539
法人税、住民税及び事業税	732	32,803
法人税等調整額	△7,132	2
法人税等合計	△6,399	32,805
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△124,617	164,733

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

継続企業の前提に関する重要事象等については、次のとおり第2四半期累計期間において解消したと判断しております。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類相当から5類に変更になり、社会経済活動は正常化に向かっております。こうした中、当社は感染対策の徹底を図り、第2四半期累計期間において予定していた公演をすべて順調に上演することが出来ました。第2半期累計期間の売上高は17億1千7百万円と、前年同期と比較して大幅に増加し、多種多様な公演実施やコスト削減への努力により営業損益、経常損益、四半期純利益についてもすべて黒字転換いたしました。また、第2四半期会計期間末の現金及び預金の残高に加え、資金計画に基づき取引金融機関と協議を行い、適切に運転資金を確保する計画を実行しております。

通期としても継続した営業損失が発生しない見通しとなり、第2四半期累計期間末日において、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は解消したと判断し、前事業年度の有価証券報告書に記載した「第2事業の状況 3事業等のリスク (3)継続企業の前提に関する重要事象等)」は消滅しております。